

授業概要

「こころ」は人間に特有のものではない。比較心理学は、ヒトと様々な動物の行動や認知能力を比較することにより、ヒトの独自性と進化の過程を明らかにし、生物としてのヒトの「こころ」を理解しようとする学問である。授業では、「認知」「学習」「発達」等、他の心理学科目で学ぶ内容を、異なる視点から解説していく。前半は、無脊椎動物から霊長類まで様々な動物種の認知能力についての研究事例を紹介し、それぞれの種がもつ「こころ」とその生物学的基盤および行動の機能・発達・進化について講義する。授業の後半は演習を行う。講義で取り上げたテーマの中から1つ選んでヒトを含む動物種ごとに資料をまとめ、調べた内容について議論することにより「こころ」についての理解を深める。

授業計画

第1回	動物に心はあるのか？：動物行動と心理学
第2回	行動の測定と実験のデザイン：動物をもちいてヒトの心を研究する方法
第3回	学習：様々な学習と生物学的意義
第4回	記憶：動物たちの記憶力・ヒトの記憶力、および記憶の研究手法
第5回	知性（1）：動物の概念と思考
第6回	知性（2）：問題解決と道具使用
第7回	知性（3）：道具使用の基盤
第8回	社会的知性（1）：社会的認知と社会行動
第9回	社会的知性（2）：心の理論
第10回	言語とコミュニケーション（1）：様々なコミュニケーション行動
第11回	言語とコミュニケーション（2）：動物のコミュニケーションから言語を考える
第12回	言語とコミュニケーション（3）：言語の生物学的基盤
第13回	演習：演習目的と進め方の説明、演習テーマの決定と分担、資料の紹介・資料検索
第14回	演習：資料のまとめ・進捗報告
第15回	比較心理学まとめ：ヒトのこころと動物のこころ
第16回	学期末試験（筆記）

到達目標

人を含む動物の認知行動を通して「こころ」の多様性を学び、ヒトの「こころ」の基本的仕組みおよび働きについての基礎的な説明ができる。人間に特異的と考えられている能力が他の動物にも見られること、その基本的なメカニズムは同じであることを理解し、動物に対する正確で謙虚な姿勢を身につけると共に、真の「人間らしさ」を考察する。動物全般を対象とする心理学の方法論を学ぶとともに、生物としてのヒトの「こころ」を解明することを目標とする。

履修上の注意

本講義を受講する学生は、心理学、特に学習心理学や心理学実験に関する基礎知識をもっていることが望ましい。心理学概論を受講していない場合は、参考図書等で知識を補うこと。演習では、資料の検索からまとめまで授業時間内に指導するが、足りない部分は授業時間外に各自で行う。

予習・復習

「学習」「認知」「発達」等、他の心理学科目で学ぶ内容に目を通しておくこと。また、授業中に指示した用語や興味を持った用語は辞書で調べておくこと。演習テーマは前半の講義の内容から選択するため、講義中に興味を持った内容については、予め資料を探して読んでおくこと。

評価方法

評価は、授業に2/3回以上出席し、授業時間内に実施する課題（不定期）を提出し、かつ最終試験を受験した者に対して行う。最終試験の成績60%に、演習課題20%と授業態度20%を加えて総合的に評価する。

テキスト

テキストは使用せず、毎回学習内容をまとめた授業資料を配布する。
参考文献は授業の中で紹介する。